

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 つくべた		
○保護者評価実施期間	令和 7年 12月 15日		～ 令和 8年 1月 9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 8名
○従業者評価実施期間	令和 7年 12月 15日		～ 令和 8年 1月 9日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数) 2名
○訪問先施設評価実施期間	令和 7年 12月 8日		～ 令和 7年 12月 26日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	8施設	(回答数) 7施設
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 2月 6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援員の知識・技術への満足度が高い ・「具体的にわかりやすい」「園で実践しやすい」「迅速に対応してくれる」などの声 ・対象児の状態・クラス全体の状況を踏まえた助言が評価されている ▶支援の専門性と実効性が強みとして確立している	・経験のあるスタッフを配置 理学療法士/作業療法士、障害福祉に経験のある保育士等 専門職員を訪問支援員として配置するとともに、経験年数10年以上障害福祉に携わる職員を配置し、より専門的に支援を検討できるように工夫している。	・子ども一人一人の発達状況や、障害特性を情報共有、園や保護者の意向等総合的に評価、情報共有しながら、利用される子どもにより良い支援を一緒に考えていく事を今後も継続していきたいと思います。
2	園・保護者とのコミュニケーションが丁寧で信頼度が高い ・質問への回答が適切・迅速 ・保護者への報告が「わかりやすい」と好評 ・子どもが訪問を楽しみにしているという声も複数 ▶関係構築力・信頼関係の形成が強み	・相談しやすい関係作りに努めている。 ・こどもの支援に日々携わられている職員の想いや園の考えを受け入れながら、その子供にとってより良い支援を一緒に検討出来るよう努めています。	・思った事、感じた事をいつでも相談しやすい環境作りを今後も意識し、保護者や訪問先施設の方が安心して事業を利用できるように努力したいと思います。
3	支援の効果が実感されており、園・保護者の負担軽減につながっている ・「対象児が落ち着いて過ごせるようになった」 ・「活動参加がスムーズになった」 ・「保育士の対応がしやすくなった」 ・「保護者の悩みが軽減した」 ▶支援の成果が明確に現れている点が大きな強み	・訪問先でのより良い支援が、子供にとって過ごしやすくなる事を念頭に努めています。その結果が、園や保護者の負担軽減につながっていけるよう努めている。	・や子どもの発達状況や特性を保護者や訪問先と情報共有しながら、理解を深めることを継続し、支援者が出来そうと思える支援を提案していきます。実際に支援をされ、こどもの成長と一緒に感じる事が出来るよう努めてまいります。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問目的・支援内容の説明が十分に伝わっていない場面がある ・「何度も来られる目的が分からない」 ・「保護者の方針を聞いてから支援を利用した方がよいのでは」 ・事業の全体像が分かりにくいという声も	・特に、初めて保育所等訪問事業を利用される保護者や訪問先では、事業概要や事業の目的、内容等の事前説明等の流れを口頭のみで行っているため、説明の行き違いが生じた事が原因とされる。	・説明資料の整備・事前説明の標準化し、説明をした際には同意(説明者へのサイン)を頂く等、統一した事前説明を検討していきたいです。保育所等訪問事業を保護者も訪問先にも安心してご利用いただく為に、優先順位の高い取り組みだと考えます。
2	情報共有の方法(特に写真付き報告)が園にとって不透明 ・「他園児が写っていないか気になる」 ・「どんな内容を保護者に送っているのか園にも共有してほしい」 ・担当者から説明がなかったという指摘も。	・事前説明の際には、保護者への報告が必須な点、事業所としての報告方法についてを口頭で説明させていただき、承認を口頭のみで得ていた事で、行き違いが生じた事が原因とされる。報告方法については、それぞれの園で対応しているが、細かい方法を検討していく必要がある。	・情報共有ルールの明確化・園への説明強化が必要。上記項目1と同様に、事前説明の標準化に組み込み、細かく打ち合わせをしていく事を検討します。また、同意(説明者へのサイン)を頂く等し、安心して利用できる体制を整えていきたいです。
3	事業の周知・連携体制に改善の余地がある ・訪問事業独自の情報発信が不足 ・緊急時対応の周知が不十分 ・園から療育機関への見学機会を望む声 ・家族支援プログラムや研修の案内が少ないという保護者の意見も。	・当事業所の保育所等訪問支援は、同事業所の児童発達支援事業を利用している方が対象となっている方が対象となっている事を踏まえ、緊急時対応、研修案内等については同じように対応をしているが、情報発信不足により、保護者に周知できていない点。 ・園から施設見学の希望があれば対応できる体制であるが、情報発信できていない。	・保育所等訪問に関しては、児童発達支援事業での情報発信として、お便りを作成しているため、保育所等訪問事業についてもコラムなどでの情報発信を検討します。 ・当事業所への見学に関しても、事前説明に盛り込むなど情報発信できる方法を検討したいと思います。